

## ⑤ 船橋市古作地区ゾーン30プラス整備事業 ～交通ビッグデータに基づき検討した交通安全対策（物理的デバイス）の整備～

受賞機関 船橋市

**キーワード** ゾーン30プラス、狭さく、イメージハンプ、交通ビッグデータの活用

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

船橋市古作地区のゾーン30プラス整備事業。ETC2.0等のビッグデータを活用した分析を行い、適切な物理的デバイスを選択して効果的な交通安全対策を実施している点や、客観的データを活用して、地元との合意形成や関係機関調整を円滑に進めた点が評価された。

### 1. はじめに

本市では生活道路における人優先の安全・安心な通行空間整備のため、様々な交通安全対策を実施しており、その一環として、平成24年度から千葉県警察と連携してゾーン30の整備を進めてきた。令和3年度からは、「生活道路の交通安全に係る新たな連携施策「ゾーン30プラス」の推進について（令和3年8月26日）」の通知に基づき、「ゾーン30プラス」の整備を行っている。「ゾーン30プラス」の整備に当たっては、交通ビッグデータを活用し、有識者、国、千葉県、千葉県警察、市等による協議会において検討を行った。

### 2. 事業の概要

船橋市古作地区は主要地方道市川印西線、主要地方道船橋松戸線、県道松戸原木線、幹線市道に囲まれたエリアに位置している。本地区周囲の幹線道路では、慢性的な渋滞が生じ、抜け道利用としての車両が区内に進入する危険な状況が発生していた。

「ゾーン30プラス」の整備を進めるに当たっては、ETC2.0プローブデータや事故データなどの交通ビッグデータを活用し、エリア内の平均旅行速度及び時速30km以上で走行する車両の割合や急ブレーキ発生等のヒヤリハット状況、事故状況などの分析を行い、エリア内の交通状況を客観的に把握することとした。

分析結果より、抜け道利用されている道路は、平均旅



入口部狭さく・イメージハンプ設置状況

行速度が周辺道路よりやや速く、時速30km以上の車両の割合が多い状況であり、地域住民からも抜け道対策の要望が出ていたことから、当該道路に安全対策を実施した。対策メニューは、速度抑制の効果が期待できる、物理的デバイスである狭さくを採用し、更なる速度抑制を目的としてイメージハンプも設置した。

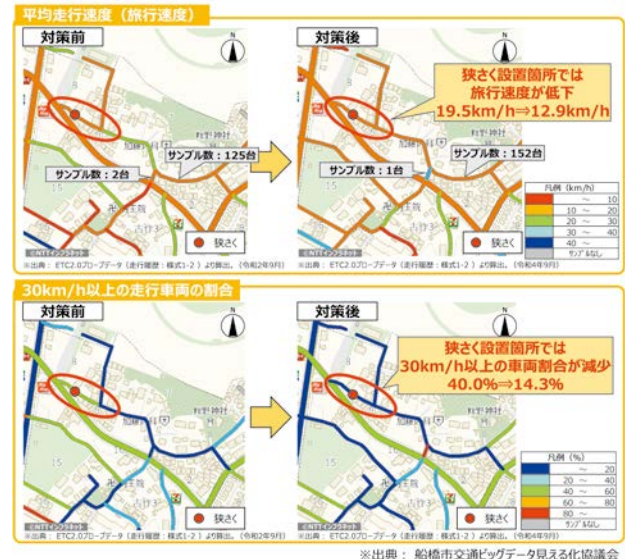
### 3. 事業の成果

#### 1) 交通ビッグデータの活用

整備計画策定に当たり、客観的根拠である交通ビッグデータを活用し、有識者等が検討したことにより、地域住民との合意形成や関係機関との調整をスムーズに行うことができた。

#### 2) 物理的デバイス設置の効果

狭さくを設置した箇所において、整備前後の指標を比較したところ、平均旅行速度が低下するとともに、時速30km以上で走行する車両の割合が減少し、地区内の安全性が向上した。



交通ビッグデータを活用した効果検証結果

### 4. おわりに

本市では、今後も交通ビッグデータを活用した「ゾーン30プラス」の整備を進め、人優先の安全・安心な通行空間の整備を推進していく。さらに、交通ビッグデータを用いて、対策実施後の効果検証を行い、PDCAサイクルによる継続的な取組を行っていききたい。

賛助会員 (株)長大